

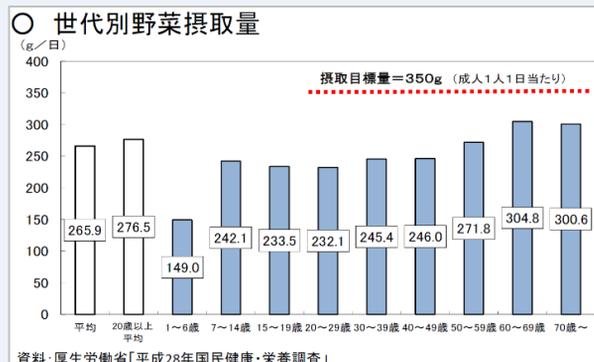
参考データ - 『KIDS LOVE VEGETABLES』プロジェクトと動画制作の背景 -

西友が『KIDS LOVE VEGETABLES』のプロジェクトに取り組むきっかけとなったのは、日本のこどもたちの野菜不足が深刻な中、こどもが野菜にニガテ意識を持ち親御さんが悩まれていることが明らかになったためでした。以下に国の統計と西友の自主調査結果を参考データとして添付します。

□ 年々野菜が不足していく現代日本のこどもたち。

【統計データ】

農林水産省の統計によると日本人の野菜消費量は年々減少しています。こどもの1日当たりの野菜摂取量も1～6歳で149.0g、7～14歳で242.1gと、未成年のため成人の摂取目標量（350g）と単純には比較できませんが、少ないのは事実です。



□ 3～10歳のこどもの88%が野菜が嫌い。

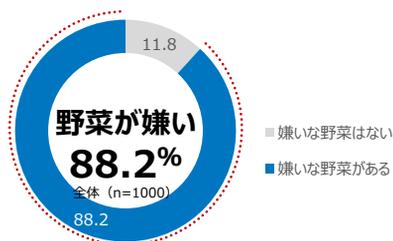
□ 3～10歳のこどもの4人に3人が野菜を「残し」、2人に1人は「全く食べない」ことがある。

野菜が不足する日本のこどもたち。その理由はどこにあるのでしょうか。西友では、3～10歳のこどもを持つ全国の父母1,000人に、こどもの野菜の摂取状況や好き嫌い、嫌いな場合の対処法について調査を実施し、その実態を探りました。

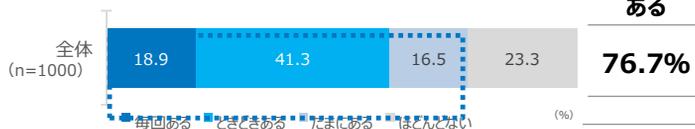
その結果、こどもが嫌いな野菜を聞くと、「ない」と答えたのは全体の11.8%で、残りの88.2%はなんらかの嫌いな野菜がある、野菜嫌いであることが分かりました [図1]。

食事に出した野菜をこどもが残す頻度を聞くと、2割近くが「毎回ある」(18.9%)と答え、「ときどきある」(41.3%)と「たまにある」(16.5%)を合わせ約8割(76.7%)の家庭でこどもが野菜を残すことがあります [図2-1]。野菜を全く食べない頻度を聞くと、1割が「毎回」(9.1%)で、「ときどき」(21.2%)と「たまに」(17.0%)を合わせ、半数近く(47.3%)のこどもが野菜を「全く食べないことがある」状態です [図2-2]。

【図1】 こどもの嫌いな野菜の有無



【図2-1】 こどもが野菜を残す頻度



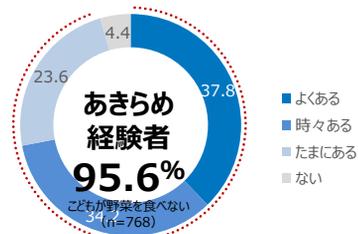
【図2-2】 こどもが野菜を全く食べない頻度



□ こどもに野菜を食べさせることをあきらめたことのある保護者は95.6%にも。

【図3】 野菜を食べさせることをあきらめた経験

[図2] でこどもが野菜を残したり全く食べなかったことがある家庭が多いことが分かりましたが、そのような場合、そのまま野菜を食べさせることをあきらめてしまうことがあるかを聞くと、3人に1人は「よくある」(37.8%)と答え、「時々ある」(34.2%)と「たまにある」(23.6%)を合わせ、全体の95.6%もがこどもに野菜を食べさせることをあきらめた経験があります [図3]。



※四捨五入の関係でスコアの構成比の合計が100%にならない場合があります。

調査概要 ■ 実施時期 2019年9月14日(土)～9月17日(火) ■ 調査手法 インターネット調査

■ 調査対象 3～10歳のこどもと同居し、家族の食事を週に2回以上用意し、野菜をスーパーマーケットで買う男女の保護者1,000人

●こどもが3～6歳のフルタイム勤務女性350人 ●こどもが3～6歳のフルタイム以外(パートおよび専業主婦)女性350人 ●こどもが3～6歳のフルタイム勤務男性150人 ●こどもが7～10歳のフルタイム勤務女性50人 ●こどもが7～10歳のフルタイム以外(パートおよび主婦)女性50人 ●こどもが7～10歳のフルタイム男性50人